

STOP! 薬害

8月24日は薬害根絶の日

1999年、厚生省は薬害再発防止を決意し「誓いの碑」を庁舎正面に建立しました。

全国薬害被害者団体連絡協議会は、建立の日を「薬害根絶デー」とし、毎年、国との交渉を続けています。私たちも、連帯して薬害根絶を訴えます。



子宮頸がんワクチン被害



推定339万人のワクチン接種者のうち2,906人に副反応が発生。うち1,572人には重篤な障害。

接種の積極的勧奨は中止されましたが、今も、全身の痛み・震え・歩行困難・記憶障害など様々な症状で苦しむ少女たちがいます。

被害者は、救済と再発防止を求めて4カ所の地裁で訴訟に踏み切りました。

薬害エイズ和解から20年たっても続く不正

ウイルスに汚染された血液製剤でエイズに感染させられた被害者に再発防止を誓ったのは1986年。

その一方で、加害企業が国の承認を得ていない方法で血液製剤を製造し続けていることが昨年わかりました。

国の安全性行政が機能しているか監視する第三者組織の創設を、強く求めましょう。



こんなにあった日本の薬害

1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レントン博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンブル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。

1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続い

た。

1989 MMR ワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。日本での使用禁止はアメリカから10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

C型肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、1万人以上が感染。2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後から副作用死多発。抗がん剤の承認・安全性情報伝達に改善課題を残した。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。10代には使用禁止に。

2013 子宮頸がんワクチン

ワクチン接種を受けた少女に歩行・記憶障害など後遺症が残る副反応。接種推奨を控える勧告。

2016/7

